

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	滋賀県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大津市立唐崎小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	4	4	4	4	3	29	41
児童数	165	172	151	158	142	157	13	958	

研究の概要

1. 研究主題

<p>学ぶ意欲を高め、確かな学力を育てる学習の創造</p> <p>- 子どもが自ら追求する算数学習のあり方を求めて -</p>

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>2～6年生・算数科</p> <p>本校児童には「学ぶ力」「学ぶ意欲」という学習面での個人差が非常に大きい。そこで、児童の理解の状況に差がしやすい教科である算数科を研究教科として取り上げた。</p> <p>2年～6年生すべての学年を対象としたのは、算数科は学習の積み上げが大切な教科であると考えたからである。1年生については、複数指導(TT)において個に即した指導を行っている。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高め、確かな学力を育てる少人数学習のあり方を探る <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある教材や単元の開発を行えば、子どもの学習意欲は高まるのではないか。また、子どもの学びに即した少人数学習を進めることで確かな学力が育めるのではないか。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を形成するためには計算スキルの形成が必要と考え、毎日5校時の前に10分間という帯の時間で習熟タイムを設定した。 ・子どもが学習意欲を高め課題意識を持てるような教材の作成や単元の構成を工夫するとともに、どの場面で少人数学習または理解速度別の学習を行うと効果的なのかということをも明らかにするため授業研究を進めた。 ・確かな学力を子どもの学ぶ意欲や計算スキルのような技術だけにとらえるのではなく考える力が不可欠であると考え、「考える力」を育てるため、一人ひとりの子どもが課題解決での作業的・体験的な活動を通して学ぶ場を設定した。
--------	---

<p>テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意欲を高め、確かな学力を育てる少人数学習及び理解速度別学習

平成 16 年度	<p>のあり方を探る</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習規範や社会規範を形成した学級づくりを行い、魅力ある教材や単元の開発を行えば、子どもの学習意欲は高まり確かな学力を育てることができるのではないかと。また、子どもの学びに即した少人数学習及び理解速度別学習を推進することで確かな学力が育めるのではないかと。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確固たる学びの基盤づくりのため、6年間を見通した学習ルールや発達段階や児童の実態に応じた「伝え合う力」等の学習スキルを作成する。 ・子どもが学習意欲を高め課題意識を持てるような教材の作成や単元の構成を工夫するとともに、どの場面で少人数学習または理解速度別の学習を行うと効果的なのかということをはっきりとさせるため授業研究を進める。 ・確かな学力の形成のため、「考える力」が育つような課題解決での作業的・体験的な活動を通しての学びの場を設定する。
----------------	---

(3) 研究推進体制

* 各学年ごとに授業づくりを通じた実践研究を行い、研究の成果を積極的に交流するため、研究推進部には各学年から1名推進委員を出している。〈下図参照〉また、少人数推進委員会との連携が不可欠であるため、少人数担当者が研究推進委員となるとともに、他の推進委員もできる限り少人数推進委員を兼務するような研究体制を取ってきた。

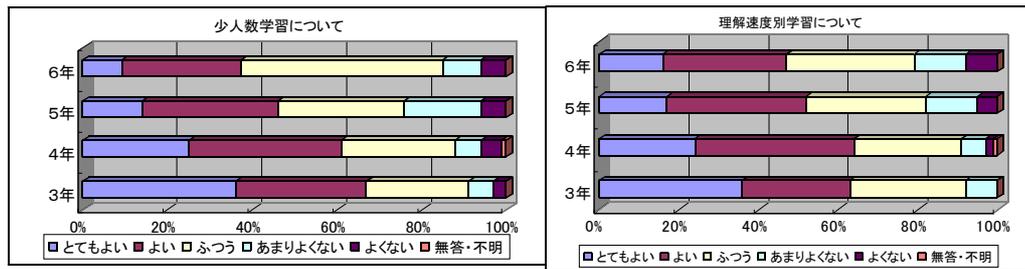
全体研究会						
研究推進委員会				少人数推進委員会		
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	なごり学級

* 大津市教育研究所の研究協力校となり算数科の授業づくりを進める校内研究の取組みのあり方について研究を進める中で、鳴門教育大学学校教育実践センターの梅澤 実教授を校内研究会にむかえ「子どもが意欲を持って取り組む算数科学習のあり方」を中心に指導助言を受けてきた。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

* 子どもたちの学習意欲を高めるような単元の構成や教材の開発・工夫を進めたことで、子どもたちの算数学習での意欲は高まり、少しずつ主体的に学ぼうとする子どもへと育ちつつあると考えられる。また、少人数学習や理解速度別学習について、「クラス以外の友達や先生といっしょに学習することをどう思いますか」と質問したアンケートによると、少人数学習を支持している子どもたちは5, 6年生で約80%、3, 4年生で90%であった。同様に理解速度別学習においても同様の結果が出ている。その理由としては、「学習内容がわかりやすい」「自分のペースで学習できる」をあげており、自分のペースで学習できることで意欲も高まってきたと考えられる。また、支持する意見の中には、「いろんな友達と学習できる」「他のクラスの人と友達になれる」「教えあって学習できる」というような学級の枠を越えての学習の場を肯定している意見も多く見られた。〈「少人数学習について」「理解速度別学習について」のグラフ参照〉



* 学習形態の研究として少人数学習を進めるのではなく、どの単元でどのような学習活動で少人数学習が有効なのかを、日々の実践の中で探ってきたことで、子どもたちに「確かな学力」をつけるためには少人数学習だけでは不十分であるということが教師間で共通理解できた。さらに、子どもたちに「確かな学力」を身につけさせるために、「学習意欲の向上」「学習規範や学習スキルの形成」「教師の学習指導力の向上」の3つが必要であることが明確になってきた。そこで、子どもたちの知的好奇心を揺さぶる魅力ある授業づくりの前段として、学級づくり・学習規範・社会規範の形成に、各担任が力を注ぐようになった。また、学習のルールについては6ヶ年の一貫性を持つ計画的なものにするために、学年ごとに発達段階や児童の実態に応じたものを、研究推進委員会を中心に検討、作成に取り組んでいる。

* 学校の校内研修の重要性が指摘される中、本校では「授業の評価表」を用いての授業の参観や研究協議を進めてきた。これは、教師一人ひとりの授業の見え方の違いをとらえ、学習指導力を高めようとのねらいからの試みであった。参観した授業の中でおきていることを子どもの学びの事実から、また教師の働きかけを評価することを通して、授業研究会等で単に授業の感想を出し合うことなく、観点をしばって授業を見ること、その観点を自分の基準にそって評価してみることを通して、個々の教師が自分の授業を振り返るきっかけとした。教師の学習指導力に焦点を当てたのは、子どもたちの学習意欲を高めるような単元の構成や教材の開発・工夫を進めたり、子どもの学びに即した少人数学習を行うといった「学習の形」を作っただけでは、子どもたちに「確かな学力」は育めないと考えたからである。一人ひとりの子ども理解にたった学級づくりと学習規範づくり・学習環境の整備等の学びの基盤をより生かしていけるのが教師の力量＝学習指導力であり、このような授業の評価表を用いて授業研究会を繰り返してきた中で、本校の教師の授業を見る目、授業を作り出す力は育ってきたのではないかと考えられる。そして、そのことが、個に即した授業づくりの中に生きてきたと考える。

2. 今後の課題

* 少人数学習には学年の担任教師と少人数担当者、担任外ら多くの教師が関わって授業を行っているが、教材研究や指導方法等の打ち合わせの時間を確保することが難しい。教師のチームワークで授業を展開していく必要性が指摘されている中、どのようにすればそれらの時間を確保できるのか日課表等を検討中である。

* 理解速度別学習では、子どものわかり方に即した単元構成が必要となるが、これまでのような単線型の単元構成ではなく、それぞれのコース別の複線型のカリキュラムを作成する必要がある。

学力等把握のための学校としての取り組み

* 平成14年度より、2学期に少人数学習及び理解速度別学習に対する意識調査を児童と保護者対象に行っている。このアンケート調査により、児童の場合は学習に対する意欲や学習に対する自己評価（例えば、「学習がわかるようになったか」等）を、保護者に対しては子どもたちの変容（学習に取り組む姿勢や

学習の効果等)を調べている。

- * 大津市では教育研究所により毎年1学期に3, 5年生の国語と算数の学力テストが実施されている。そのデータを元に各領域ごとに、全市平均と本校の平均の比較等を行い、学力の実態をとらえようと試みている。また、3学期末には、各学年対象に算数の学力テストを実施する予定である。この調査により、今年度の学習状況を把握するとともに、子どもたちの課題は何かを検討し、来年度の研究に生かしていこうと考えている。
- * 抽出学年(今年度は6年生)については、単元の終わりに行った評価テストについて、観点ごとの達成状況をグラフ等に表し分析をしてきた。(例、「分数のたし算・ひき算」、「計算の見積もり」、「単位量あたり」等)このことで、設定した学習活動が、数学的な考え方の力を伸ばせたのかどうか等、子どもたちの学力を評価観点別に分析を試みた。また、その結果については夏期校内研修会等を利用して実践報告を行った。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 大津市教育研究所の研究協力校として、平成15年11月20日に授業を伴う研修講座として大津市の教職員を中心として「学ぶ意欲を育てる算数学習のあり方」をテーマに、3年生「あまりのあるわり算」での少人数学習の算数科の授業公開と研究協議会を実施した。
また、平成16年1月29日には、第1地区第3回の協議会を行い、理解速度別の授業を公開し本校の取組みについての発表を行った。
- * 本校のホームページを活用して、学力向上フロンティアスクールとしての授業実践の記録を適宜配信するよう努めている。現在は、研究授業での子どもたちの学習の様子を公開しているが、指導案や協議会での討議を通して再構成した本時案及び授業の考察等も、資料として公開していく予定である。
- * 1月29日の第3回協議会では、上記「学力向上への取組み」(学習指導案、研究授業での子どもたちの学びの様子等)CD-R版を作成し参加者に配布した。(同資料については、今後ホームページ上に配信する予定である。)
- * 平成16年1月27日には、3年生の少人数学習での取組みについて、大津市教育研究発表大会で報告を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 TTによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無